

～先生からの贈る言葉～

一口で「給食」と言っても、提供されてきた長い歴史の中で進化を遂げてきています。ソフト麺を一つとっても、過去はどんなソースであっても同じ麺でしたが、今では麺をつける和食・洋食・中華のソースによって変幻自在です。

私は、教育委員会勤務を除くと、学生生活と教師生活の約40年間、平日の昼食は良質で安価な学校給食のお世話になってきました。1年間の授業日数は約200日ですから、約8,000回もの食事を安全に安心していただけたことを、改めて学校栄養職員や給食調理員の皆さんに感謝申し上げたいと思います。

学校給食だからこそ味わえた、焼きそば・カレー・揚げパン・・・の味。実は学校栄養職員さんによって各学校で微妙に味が異なるようです。3年生の皆さんと同じく私ももう味わえないのは残念ですが、これから入学してくる子供たちに学校生活の思い出とともに受け継がれていくことを願っています。

校長 岩井 隆司

義務教育の9年間が終わります。その間に食べた給食は、みんなの気持ちを支え、体を成長させてくれました。139人分の家庭の味。濃い味、薄い味、様々な味で育っている全員の味覚を満足させる給食って凄いなと思いませんか。新鮮な食材を準備してくださる農家・お店の方、その材料を料理してくださる給食の先生・調理員さん。その方たちに“ありがとう”の気持ちをもってほしいと思います。また、みんなが元気に学校に通うことができるよう支えてくれた家族にも感謝したいですね。

多くの人たちのおかげで中学を巣立つことを忘れないでください。

そして、これから高校の3年間を支えるお弁当を作ってください家族に“よろしくお願いします。”も忘れず伝えましょう。なかなか大変なんですよ。お弁当作りって。

給食主任 戸上 いづみ

3年生のみなさん、ご卒業おめでとうございます。

いつも残さず給食を食べてくれたみなさん本当にありがとうございます。3年間で食べる量も増えましたね！心も体も大きく成長している証拠だと思います。

高校生になると、給食がない学校がほとんどです。高校生になっても病気に負けない体づくりのために、食べることはとても大切です。なんでもバランスよく食べて、楽しい高校生活を送ってください。そして、時々中学校での給食を思い出してくれたら嬉しいです。

調理員 一同

私は、愛知県豊川市の出身です。子どもの頃の学校給食は、もう何十年も前のことですが、記憶が鮮明に残っています。食器は、ベークライトの材質で食器とトレーが兼ねており、4つの窪みがありました。その食器トレーを持って、窪みに料理を入れてもらうよう並びます。主食は、毎日食パンでした。箸は自分で持って来るのではなく、先割れスプーンがいつも準備され、どの給食もそのスプーンで食べていました。牛乳は、瓶牛乳でした。私の好きな献立は、おしるこ糸きり昆布の煮つけでした。この組み合わせは絶妙で、食パンにおしるこの甘さが合い、相対するように糸きり昆布の煮つけの辛さも合いました。海に近い地方なので、海産物は給食に多く登場していました。今から思うと地産地消だったのですね。米飯給食が始まったのは、小学校3年生からです。給食は時代とともに変わり、そして地方でも違います。私たちが長年親しんだ岐阜の学校給食がみなさんの良い思い出に残ることを願っています。



栄養職員 野々村 美和子